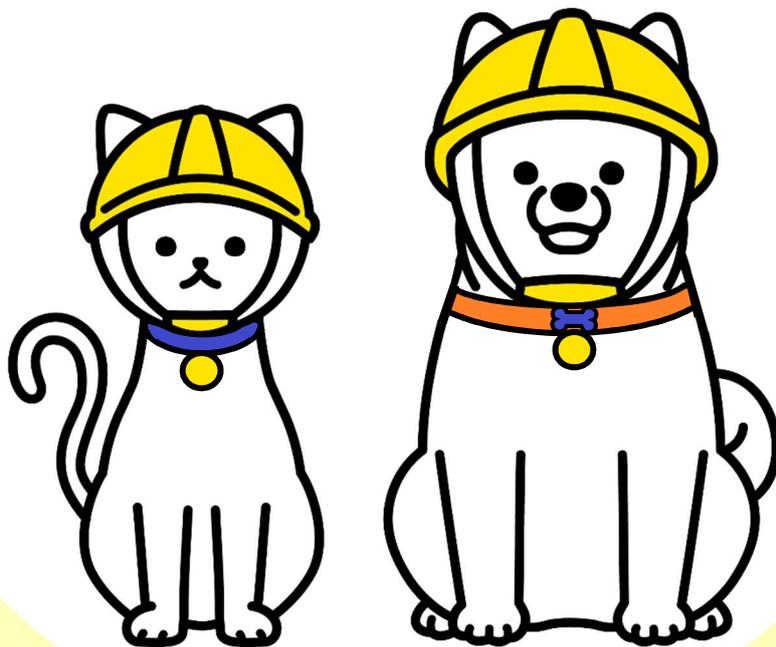


ペットと飼い主の 防災手帳

人とペットの命を守るには
日頃からの備えが大事で



ペットの
名前

日頃からの備えについては、5～7ページを読んで準備しよう！

飼い主の情報・連絡先

【住所】

連絡先
① 【氏名】
【電話番号】
【メールアドレス】

連絡先
② 【氏名】
【電話番号】
【メールアドレス】

近隣の緊急避難場所・避難所

【緊急避難場所】

※災害から一時的に避難するための施設、公園、高台等

【避難所】

※災害で自宅の倒壊や水・電気等が使用できない場合に、一定期間生活を送る施設

かかりつけの動物病院

【病院名】

【所在地】

【電話番号】

ペットの情報

【名前】	【性別】 男の子 ・ 女の子 (不妊去勢手術 未 ・ 済)
【ペットの種類】 犬 ・ 猫 ・ その他() (犬種・猫種等)	
【生年月日】	【毛色・体重等体の特徴】
【マイクロチップ】 未 ・ 済(No.)	
【その他の識別番号】	【登録番号(犬)】
【ワクチン接種】 未 ・ 済(種類) ※最近の接種日(年 月 日)	
【狂犬病予防接種(犬)】 最近の接種日(年 月 日)	
【ノミ・ダニや内部寄生虫の駆虫】 済 ・ 未	
【既往歴】 必要な薬の名前(用法・用量):	
【性格】	
【ペットの写真】 ペットと飼い主と一緒に写っている写真やペットの全身写真を貼りましょう。体の色や大きさ、しっぽの長さや形等全身の特徴がわかる写真は、迷子になったときに探す手掛かりになります。	

ペットがたくさんいる場合は、このページをコピーして、追加のページを貼り付けてください。

一緒に避難できますか？

災害時に飼い主がペットと共に避難することを**同行避難**といいます。同行避難は避難行動を示す言葉で、ペットと同室で避難生活をするという意味ではありません。

同行避難をしないと・・・

- ペットが迷子になる、飼い主が家に戻れなくなる
→ペットとの再会が困難になる
- 避難指示に従わずペットと被災地に残ったり、ペットを保護するため立入禁止区域に侵入しようとする飼い主が現れる
→人命救助のため被災地へ向かう際に、二次被害を引き起こす
- 放浪動物が増える
→人を咬む事故や、無秩序に繁殖して地域の環境問題を引き起こす

同行避難は、人の命を守るためにも必要なことです。



🐾 頭数を考える

一緒に連れて避難できる頭数は限られています。よく考えて適正な頭数を飼いましょう。既に複数頭を飼育していて家族だけでの避難が難しい場合は、ご近所や飼い主仲間等に避難の手伝いや一時預かりをお願いしておきましょう。

🐾 大きさや健康状態

大型犬や病気のペット、自力で動けない高齢ペットを飼っている場合は、カートや補助具等移動手段を考えておきましょう。家族のほかにも、移動等を手伝ってくれる人を探しておくこと安心です。



🐾 猫は室内飼い



猫が外にいと、災害が起きても呼び戻しができず、避難の時に連れていけません。猫を室内で飼うことは、普段から猫の健康と安全を守ると同時に、災害への重要な備えです。

🐾 不妊・去勢手術をする

不妊・去勢をしておくこと、多くのペットと一緒に避難所等でも、繁殖期のケンカやストレスを軽減することができます。マーキング等問題行動防止のためにも不妊・去勢手術をしておきましょう。



あなたの備えは大丈夫？



ペットが家にいる
✓ 住まいの防災対策

ペットが逃げ出した

避難の準備が……

極度の興奮状態・地震により窓やドアが壊れ、逃げ出してしまうこともあります

探したら……

できていない

見つかった
✓ 所有明示の徹底

ペットが行方不明

できている
✓ 家族の話し合いやご近所との連携
✓ 情報収集と避難訓練
✓ 健康管理としつけ
✓ ペット用品の備蓄



避難所での生活中に……

ペットのトラブルが発生

ペットのエサや水が足りない
ペットの病気が悪化する、ストレスがたまる
鳴き声やにおい、毛の飛散に対して苦情が出る

人とペットが共存できる

いざという時のために
日頃から備えておくことが大切

日頃からの備えが大切

災害時の対応は、**飼い主による「自助」が基本**です。ペットと共に安全に避難でき、周りの人に迷惑をかけず、安心して過ごすために、日頃から備え・心構えをしておきましょう。

また、**飼い主同士が助け合い、協力する「共助」も大切**です。

住まいの防災

- 住まいの耐震強度の確認
- 家具の固定、転倒・落下防止
- 飼育ケージの固定・転倒防止、ガラスの飛散防止
(屋外飼育の場合は、外壁やガラス窓の近くを避けて飼育する)
- ケージ等ペットの避難場所(隠れ場所)の確保

家族の話し合いやご近所との連携

- 家族間の連絡方法や集合場所
- ペットの避難方法や役割分担
- 留守中の対処方法と協力体制
- 緊急時のペットの預け先の確保
- ご近所や他の飼い主と、日頃から良好な関係を築いておく

情報収集と避難訓練

- 避難場所までの経路と所要時間
- 危険な場所と迂回路の確認
- ペットの同行避難訓練への参加



ハザードマップの確認をする場合、スマートフォンからは高知県防災アプリが便利です。アプリから高知県防災マップを見ることができます。



DOWNLOAD APP
Google Play



DOWNLOAD APP
App Store

健康管理としつけ

- 予防接種、ノミ・ダニ・フィラリア等の寄生虫の駆除
- 不妊・去勢手術をする
- ブラッシングやシャンプー・トリミングをして体を清潔にする
- キャリーバッグやケージに慣らしておく
- 必要なしつけをしておく

～ケージの慣らし方～

1 おやつ等でケージの入口近くに誘導し、さらにケージの中へ誘導する。



2 ケージの中でおやつ等を食べさせる。

なるべくほめる



3 おやつ等で誘導しながらケージの外に出す。また中に誘導して食べさせる。



4 扉を開けたまま、おやつ等を入れた容器を置いて、ケージの中で食べさせる。



5 1～4を繰り返し、慣れてきたら、食べている間に扉を閉める。

静かに閉める



6 食べ終わる前に扉を開け、閉じ込められたと思われないようにする。

扉を閉める時間を
少しずつ延ばす



～必要なしつけ～

犬の場合



「待て」「お座り」「伏せ」「おいで」等の基本的なしつけ

ケージに入ることを嫌がらずに落ち着いていられる

不必要に吠えない

人や他の動物を怖がったり、攻撃的にならない

決められた場所での排せつ

猫の場合



ケージに入ることを嫌がらずに落ち着いていられる

人や他の動物を怖がらない

猫用トイレでの排せつ

ペット用品の備蓄

優先順位①

- 療法食・薬
- ペットフード、水(少なくとも5日分、できれば7日以上)
- キャリーバックやケージ
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- ペットシーツ
- 排せつ物の処理用具、ビニール袋
- トイレ用品(猫は使い慣れた猫砂、または使用済み猫砂の一部)

優先順位②

- ペットと飼い主の防災手帳 ※1~2ページに記入しましょう
飼い主情報、かかりつけの動物病院、ペットの情報、
ペットの写真(印刷したもの、携帯電話にも画像を保存しておく)

優先順位③

- 食器(使い捨ての皿にラップをかければ代用可能)
- タオル、ブラシ
- ウェットティッシュ、清浄綿
- お気に入りのおもちゃや毛布
- ガムテープ、マジック(名札代わりに荷物に貼ったり、ケージの扉を補強したり色々便利)
- カラビナ(犬をつないだり、荷物をかけたり色々便利)
- 洗濯ネット(猫の場合は屋外診療・保護の際に便利)



所有明示の徹底

- マイクロチップの装着・登録
- 外から見える迷子札(鳥は足環等)
- (犬の場合)鑑札、狂犬病予防注射済票

 複数方法での所有明示をしておく心安いです



マイクロチップってなに？ 15桁の個体識別番号が記録されたチップのことで体内に埋め込むため、外れたり、データを書き換えられる心配もありません。専用リーダーで読み取り、データベースに照会すると、飼い主情報を確認できます。装着については、かかりつけの動物病院にご相談ください。装着後の登録、登録情報の変更があったときの手続きを忘れずに行いましょう。



災害が発生したときは

安全確保

まずは飼い主自身の安全確保が最優先です。災害時にペットを守るためには、飼い主自身が無事であることが大切です。

突然の災害でペットもパニックになり、いつもと違う行動をとることがあります。飼い主自身が落ち着いて、言葉をかける等、ペットを落ち着かせるように努めましょう。



同行避難の判断

自宅が危険な場合や避難指示が出ている場合は、避難場所への避難を速やかに始めましょう。

※自宅が安全だと判断できる場合は、自宅に留まる方法もあります。

ペットをケージやキャリーバッグに入れる場合

- ケージの扉がきちんと閉まっているか確認
- 扉が開いて逸走しないようにガムテープを貼って固定
- リードやハーネス(胴輪)をつけてからケージに入れられると良い

ケージ等に入れられない場合

- 犬はリードを付け、首輪が緩んでいないか、鑑札・狂犬病予防注射済票を装着しているか確認

※ガラスやがれき等で肉球をケガしないよう足元に注意しましょう

ペットが逃げたり隠れたりして捕まえることができなかった場合、時間に余裕があれば、ペットが家にいること、飼い主の連絡先や避難先を書いたメモを玄関先に掲示しておくとい良いでしょう。



生活食品課が配布しているステッカー



ペットとの避難生活の注意点

避難所で生活する

高知市の指定避難所に配備している「避難所運営マニュアル」では、**ペットスペースを屋外に配置することを基本とし、飼育方法等についてのルールを定めています。**ペットスペースは避難所により異なりますので、あらかじめ、最寄りの避難所の運営マニュアルを確認しておきましょう。



高知市避難所運営マニュアル

 盲導犬・介助犬等の身体障害者補助犬はペットとして扱いません。

高知市の避難所の基本ルール

避難所では、様々な方が不安の中を過ごします。動物が苦手な方、アレルギーがある方もいますので、いつも以上に周りの人に配慮し、**決められたルールを必ず守ってください。**

【飼育場所について】

- ペットはペットスペースで、必ずケージに入れるかリードでつないで飼育する。
- 飼育場所は、飼い主が常に清潔にし、必要に応じて消毒を行う。



【衛生管理や健康管理について】

- ペットの排便等は、飼い主の管理のもとで行い、必ず片付けをする。排せつ物は決められた方法で処分する。
- 給餌は時間を決めて、その都度きれいに片付ける。
- ノミ・ダニ等の発生防止、衛生管理、健康管理に努める。
- 運動やブラッシングは必ず屋外の決められた場所で行う。

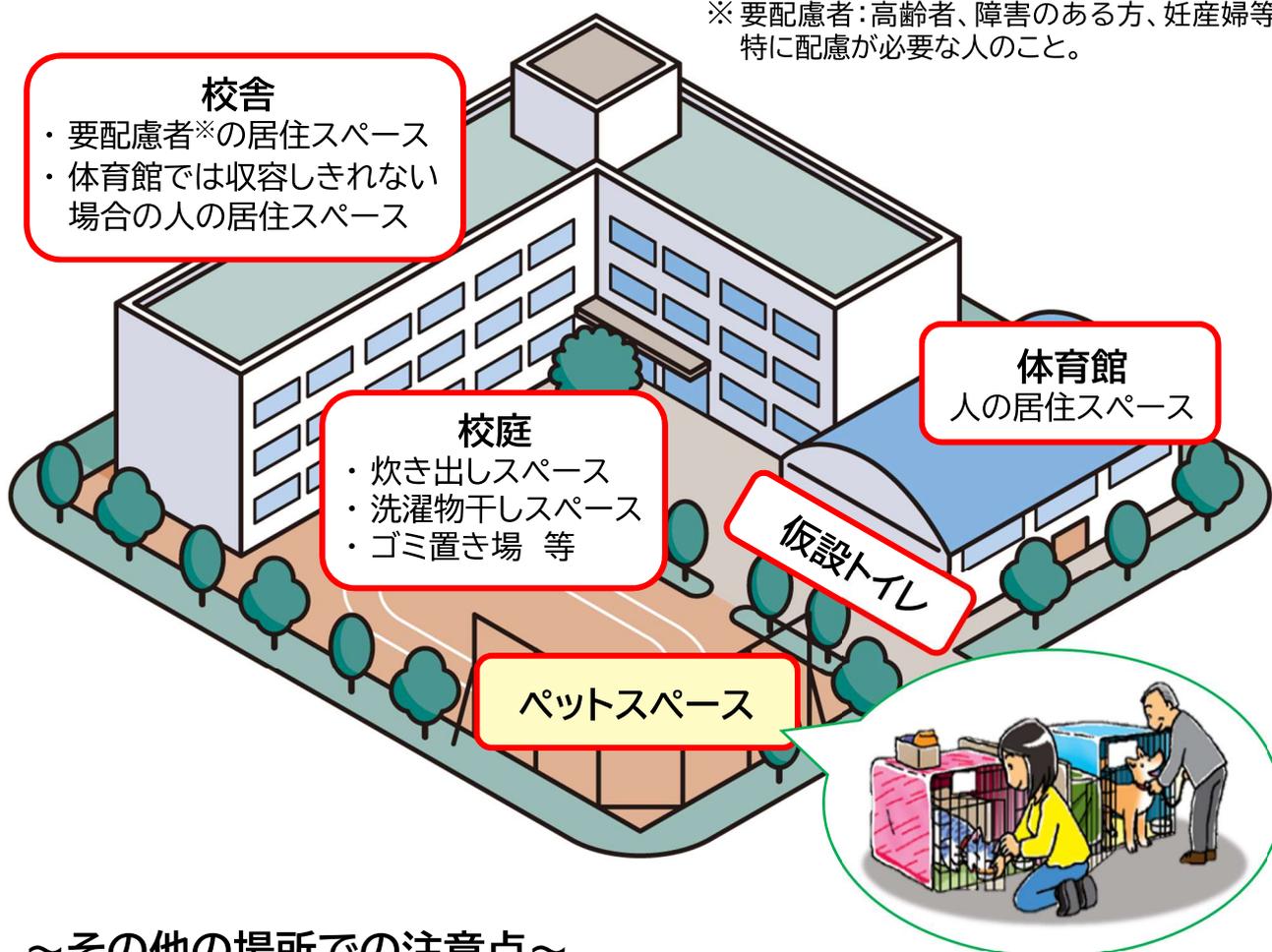
【トラブルの発生や飼育困難になった場合】

- 避難所を運営するスタッフに相談する。

 飼い主以外の方が勝手にペットを触ったり、エサをあげてはいけません。

～避難所のイメージ～

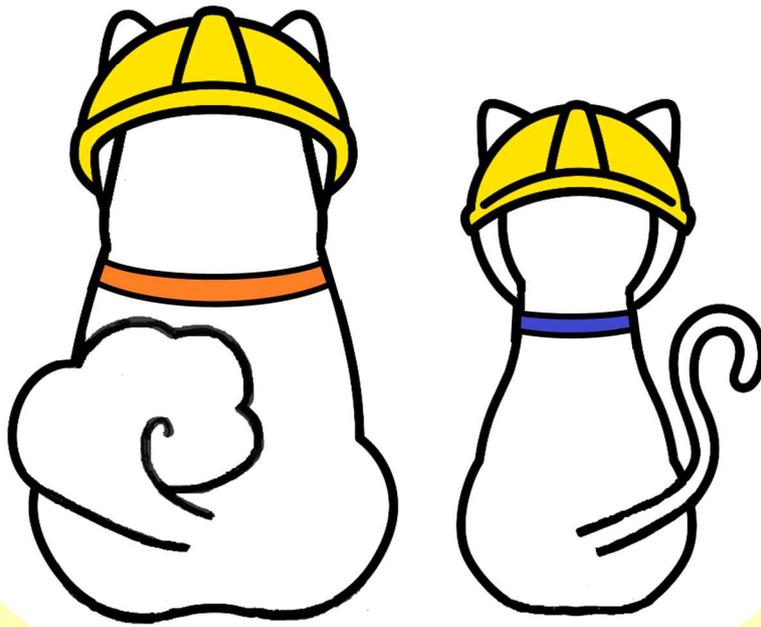
※ 要配慮者：高齢者、障害のある方、妊産婦等
特に配慮が必要な人のこと。



～その他の場所での注意点～

飼養する 自宅で	<input type="checkbox"/> 支援物資や情報は、必要に応じて避難所等に取りに行く (自宅の安全確認を確実に行う)
飼養する 車の中で	<input type="checkbox"/> 支援物資や情報は、必要に応じて避難所等に取りに行く <input type="checkbox"/> ペットだけを車中に残すときは、車内の温度に常に注意し、十分な飲み水を用意しておく <input type="checkbox"/> 長時間、車を離れる場合には、ペットを安全な飼養場所に移動させる
預ける 知人や施設に	<input type="checkbox"/> 被害がおよぶ可能性が低い遠方の知人に預けることも事前に検討・相談しておく <input type="checkbox"/> 施設に預ける場合は、条件や期間、費用等を確認し、後でトラブルが生じないように、覚書等を取り交わすようにする

災害が起こったら
ボクらも一緒に避難するからね



【参考資料・イラスト出典】 ※ 一部加工して作成しています

環境省「人とペットの災害対策ガイドライン」

「ペットも守ろう！ 防災対策」

「備えよう！ いつもいっしょにいたいから」

「見つめなおして人と動物の絆」

「飼う前も、飼ってからも考えよう」

「あなただけにできることー動物の繁殖制限ー」

生活食品課 地域防災推進課

〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7-45

ペットの取扱いについて……………生活食品課 ☎ 088-822-0588

避難所の運営について……………地域防災推進課 ☎ 088-823-9040